

保育者養成校における表現指導についての研究 ～模擬保育実践を通して～

A Study on Expression Instruction in Nursery School ～Through simulated childcare practice～

山田麻美子
(Mamiko Yamada)

要旨：

本研究は保育者養成校である本学の1年次前期実施の保育内容「表現Ⅰ」授業における模擬保育の実践とその振り返りにおいて、学生の様々な気づきや学び、今後の課題について検討を行ったものである。

模擬保育実践活動は、文科省「教職課程コアカリキュラム」の目標を踏まえて行った活動であるが、模擬保育実践後に行った他者の模擬保育に対する感想・評価シートからは、総じて他者の模擬保育の良い点を認めようとする姿勢が多く見受けられた。しかし、一方で自己評価シートからは、説明のわかりやすさや言葉遣い等に対する準備・工夫の不足などが多くあげられ、模擬保育の事前準備の段階で様々なことに対する想像力が必要であることが示されたといえる。

保育・教育者を目指す学生の今後の課題としては子どもの成長発達過程への認識と理解、模擬保育で示された具体的な保育・教育の方法及び保育・教育技術の獲得、他者の良い点や自身の改善点を自分の学びに生かしていくことなどが示唆された。

加えて、教員側の今後の課題として、模擬保育実践者及び観察者からの振り返りのみならず、子ども役として模擬保育に参加した学生からの振り返りも必要であり、より様々な角度から模擬保育実践活動を行い、学生の深い学びに繋がるような指導を心掛けることが重要であることが示された。

キーワード：保育者養成・保育内容「表現」・模擬保育・音楽表現・造形表現

I. はじめに

平成29年10月からの幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂を受け、改正された教員養成機関における教職に関わる科目では、「教職課程コアカリキュラム」(文部科学省2017)が提示され、各科目に必要な事項の見直しが求められている。幼稚園教諭の養成課程では、従来の「保育内容の指導法」に加えられた「領域及び保育内容指導法」として、より幼稚園の教育内容に即した実践的指導力の展開が可能なカリキュラム構成となっている。教職課程コアカリキュラムに基づく「領域及び保育内容の指導法」は、目標である「幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける」ための到達地点の1つとして「模擬保育とその振り返りを

通して、保育を改善する視点を身に付けている」ことが求められている。

また、施行された新教職課程では、領域及び保育内容の指導法に関する科目において、「何を教えるか」という視点から「何ができるようになるか」という視点に発展させ、「どのように支援するか、実施するために何が必要か」という観点を中心に組み立てることが求められており、学生には具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付けることが求められている。

保育者養成校である本学における保育内容「表現Ⅰ」（1年前期科目）では造形表現と音楽表現、保育内容「表現Ⅱ」（1年後期科目）では身体表現と音楽表現というように、それぞれの分野が協同し合って総合的な表現を目指し、学生の主体的かつ対話的な学びにつながる工夫が求められる授業となっている。子どもの表現に寄り添うことのできる保育者・教育者を育成するために、上記に掲げた到達点の一つである「模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている」ことに焦点を当てた模擬保育による授業実践を行っている。

以上のことを踏まえて、本稿では2023年度前期実施の保育内容「表現Ⅰ」授業における模擬保育実践活動での学生の学びに着目し、保育に関する基本的知識や実習経験が不足していると考えられる1年次の学生が、どのような学び・気づきを得ているのかについて、模擬保育後に学生が記述する「感想・評価シート」及び自身の模擬保育を振り返る「振り返りシート」からそれを読み取り、考察し、今後の課題を探ることを目的とする。

1. 研究の背景

幼稚園教育要領（2017）、保育所保育指針（2017）ならびに幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（2017）に記されている共通項として、幼児教育において育みたい資質・能力のベースとなる「3つの柱」に加えて、育みたい「10の姿」が設定され、5歳児修了頃までに目指すべき方向性が具体的に示されている。

保育内容「表現Ⅰ」の授業の冒頭で、学生にはこのことを提示するとともに、領域「表現」のねらいと内容についても知識を深めるよう示唆している。以下表1に幼児教育において育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の詳細を、表2に領域「表現」のねらいと内容を記す。

表1 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

幼児教育において育みたい資質・能力	
1. 知識及び技能の基礎	豊かな体験を通して感じたり、気づいたり、分かたり、できるようになったりする。
2. 思考力、判断力、表現力等の基礎	気づいたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。
3. 学びに向かう力、人間性等	心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	
1. 健康な心と体	幼稚園や保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

2. 自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
3. 協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
4. 道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
5. 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。
6. 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気づいたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
7. 自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛着や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
9. 言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
10. 豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことなどを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

表2 領域「表現」のねらい及び内容

ねらい
1. いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 2. 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 3. 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
内容
1. 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 2. 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 3. 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 4. 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。 5. いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 6. 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 7. かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 8. 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

II. 研究対象及び研究方法

本稿の研究対象と研究方法は以下の通りである。

1. 対象

2023年度保育内容「表現Ⅰ」受講生75名(1年次生・必修科目)

2. 研究方法

- ①2023年度保育内容「表現Ⅰ」授業記録(2023年4月～2023年7月)
- ②2023年度保育内容「表現Ⅰ」授業における受講生の模擬保育感想・評価シート及び自己評価シート(2023年7月実施)
- ③手続き

授業記録及び調査結果の公表については個人情報保護のため本研究の目的以外には使用しないこと、授業記録及び調査結果の確認は本研究者のみとし、個人の情報を公にはしないことを伝えて協力を得た。

Ⅲ. 結果と考察

1. 2023年度保育内容「表現Ⅰ」授業記録からの省察

2023年度保育内容「表現Ⅰ」授業概要を以下に記す。

表3 保育内容「表現Ⅰ」授業概要

回数	授業の内容
第1回	ガイダンス 幼児教育において育みたい資質・能力のベースとなる「3つの柱」、育みたい「10の姿」及び領域「表現」と保育内容との関連について
第2回	子どもの成長発達と表現活動の特性をとらえる
第3回	保育現場における素材の特性を生かした造形表現と教材研究1（紙類を用いた造形表現活動実践例から指導場面を考える）
第4回	保育現場における素材の特性を生かした造形表現と教材研究2（自然素材等を用いた造形表現活動実践例から指導場面を考える）
第5回	音を素材とした教材研究1 身近な素材による活動の特徴、楽しさ、指導上の留意点などを考える
第6回	音を素材とした教材研究2 オノマトペによる活動の特徴、楽しさ、指導上の留意点などを考える
第7回	表現活動における子どもに対する具体的な言葉がけや遊び方の援助と子どもの評価
第8回	リズム遊び・音楽遊びについての教材研究を行い、子どもの表現が広がる指導法を考える
第9回	身近な道具などを使った制作指導
第10回	子どもの日常的な表現やその環境構成について考える
第11回	表現活動を効果的に生み出す環境構成や保育者の支援のあり方を学ぶ 造形表現と音楽表現の総合的な表現活動を通して、指導上の留意点を考える
第12回	模擬保育の実践 感想・評価
第13回	模擬保育の実践 感想・評価
第14回	模擬保育の実践 感想・評価
第15回	模擬保育の省察とふりかえり 自己評価

保育内容「表現Ⅰ」の授業では、幼児教育において育みたい資質・能力のベースとなる「3つの柱」に加えて、育みたい「10の姿」及び領域「表現」のねらいと内容などについて学んだ後、音楽表現活動と造形表現活動をそれぞれオムニバス形式で学び、その後テーマを決定し模擬保育（指導内容案作成を含む）を実施し振り返りを行った。模擬保育は主に保育・教育実習における部分実習あるいは責任実習の主活動を意図したものでテーマを設定し、一人ずつが保育者・教育者の役割を担い、子ども役として数名の友人に依頼し、活動を行うという形で実践した。受講者数が多いことから模擬保育の時間設定は各自5分～6分とし、造形表現活動などでは、事前に製作を行ったという前提で始めてもらうこととした。

評価については一人ずつの模擬保育発表に対しての感想・評価シートを模擬保育実施直後に全員が記入するという方法で行った。全模擬保育発表は授業の3コマで行い、15回目の授業で自身の行った模擬保育について振り返り、自己評価シートに記入するという行程が進めた。

以下に模擬保育のテーマ一覧（対象年齢・ねらい及び分野別とともに）を記す。

表4 2023年度保育内容「表現I」模擬保育テーマ一覧(75名)

模擬保育テーマ（対象年齢）・ねらい	分野
音当てゲーム（5歳児）リズム感をきたえる・大きく表現する	音楽
シェクシェクを使って遊ぶ（5歳児）音遊び	造形・音楽
楽器遊び（5歳児）楽器を使ってみんなで楽しく演奏する・音楽の楽しさを知る・活動することでどのように楽しんでもくれるか考えて進めていく	音楽
リズムのまねっこ（5歳児）集中して音を聴きリズムを真似ることが出来る	音楽
手作り楽器を使ってリズム遊び（5歳児）色々な音やリズムにふれる・音楽の楽しさを知り表現力を高める	音楽
「かえるの合唱」を輪唱してみよう！（おいかけっこ）（5歳児）歌を歌うことの楽しさを味わい、複数人で重なった時の面白さを知る	音楽
さんぽと音の行進（5歳児）リズム感と同時進行する練習	音楽
「山の音楽家」の演奏（5歳児）色々な音や楽器に触れて音楽を楽しむ	音楽
「もも・りんご・パイナップル」（3歳児）	音楽
「ポイポイあそび」（4歳児）	音楽
「もも・りんご・パイナップル オリジナルVer.」（3～4歳児）真似をして遊びを楽しむ	音楽
楽器の音当てとクイズ（5歳児）楽器の音と名前を一致してもらう	音楽
音楽をよく聴き音に合わせて動いてみよう！（4歳児）音を楽しみつつ身体を動かす楽しさを知る	音楽
この音 これ なーんだ！（美術と音楽の組み合わせ）（4～5歳児）考え音に慣れる（ちぎり絵と紙鉄砲準備）	造形・音楽
叩いて音を出してみよう！（3～5歳児）身近な物から出る色々な音を聴き楽しむ	音楽
えのぐ遊び（4歳児）色々な色や模様を楽しむ	造形
楽器遊び（4歳児）音を楽しむ	音楽
ポイントゲーム工作（5歳児）楽しく工作をする	造形
まねっこリズム（4歳児）保育者のリズムを真似する中で急にリズムの変化や静かになる楽しさを知る	音楽
何の曲かな？（5歳児）曲を歌う	音楽
幸せなら手をたたこう（3～4歳児）歌に合わせて身体を動かすことを楽しむ	音楽
魚釣りゲーム（4～5歳児）簡単なルールのある遊びを楽しむ・同じ遊びを共有し他者への理解を深める	造形
シェクシェクで遊ぼう（5歳児）シェクシェクで楽しみながら音とふれあう	造形・音楽
楽器の使い方クイズ・音楽に合わせて楽器を鳴らす（5歳児）音楽や楽器を身近なものだと思えるよう音楽を楽しむ	音楽
中身当てゲーム（3歳児）創造力を高める・友達や保育者と音のなる楽しさを知る	音楽
似顔絵を描こう（3歳児）保育者の顔をよく観察し自由に似顔絵で表現する（表現）保育者（友達）と場を共有し親しみをもつ（人間関係）	造形
身近な物で音を鳴らそう（4歳児）普段使っている物をどのようにすれば音が鳴るか、鳴らし方を自分なりに工夫する	音楽

保育者養成校における表現指導についての研究

音を鳴らさず届けよう（4歳児）我慢する力を身につける・楽器を丁寧に扱おう	音楽
楽器遊び（3歳児）音楽に合わせてリズムを感じる・友達と演奏することを楽しむ	音楽
音楽遊び（もも・りんご・パイナップル）（3歳児）リズム感や運動能力を鍛える	音楽
音をよく聴いて「何の音？」（3～5歳児）音をよく聴き音の性質を知ってもらう	音楽
トーンチャイムで遊んでみよう（5歳児）自分の音を理解し皆で協力して1つのことを成功させる	音楽
楽しく楽器を鳴らそう（5歳児）決められたリズムを楽しく鳴らすことで一体感を身につける	音楽
輪唱を通して歌のフレーズを感じよう（5歳児）「カエルの歌」の輪唱を通してフレーズを感じる・楽しさを知る	音楽
「キラキラ星」と色々な音色（5～6歳児）曲のリズムに合わせて色々な楽器で音とリズムを楽しむ	音楽
音を聴こう（4歳児）身近な物の音を聴く・名前を知る	音楽
楽器を使って「山の音楽家」の一員になろう（4～5歳児）色々な音とリズムに親しみをもつ	音楽
ぼいぼい遊び（4歳児）四季について考えよう	音楽
楽器で演奏しよう（5歳児）身の回りの物で作られる音を知り、音の楽しさを感じる	音楽
楽器で演奏しよう（3～5歳児）リズムを補う	音楽
ゲーチャキパーリズムアンサンブル（4～5歳児）全員で協力して成功させたときの喜びを感じる・身体を動かしリズム感を育み全身で楽しむ	音楽
「虹」手話歌 幼稚園の想いで（5歳児）音楽・歌・手話	音楽
リズムに合わせて奏でる（5歳児）リズム感をつける	音楽
世界は音につつまれている（5歳児）音は目に見えないが世界にたくさんあふれていることを意識する・友達同士で意見の違いのあることで自分以外の考え方に気づく	音楽
オノマトペゲーム（4～5歳児）物から出る音を言葉で表す・どんな言葉になるか考える能力を鍛える	音楽
世界に一つだけの花（4歳児）自分で好きなように表現することの楽しさを知る	造形
なんの音？（4歳児）オノマトペを使ってより多くの言葉に触れる・言葉で表現する楽しさを知る	音楽・造形
トーンチャイム「キラキラ星」（5歳児）音楽にふれる	音楽
色々な楽器で遊ぼう！（5歳児）知っている楽器から知らない楽器まで音を出して遊び音楽の楽しさを知る	音楽
音楽遊び（リズム）（5～6歳児）食べ物には色々なものがあることを知る・リズムに合わせて言えるか・皆の前で最後までやりきる力を育む	音楽
トーンチャイムで遊ぼう（5歳児）トーンチャイムの活動を通して自分の役割をこなす	音楽
画用紙で飛んで競おう・びゅんびゅん動物をつくろう（5歳児）作る楽しさや完成した物で遊ぶ楽しさを知る・自分で飛ぶ動物は何か考える思考力を広げる	造形
八百屋のお店 何があるかな？（5歳児）自分で想像して考える力を身につける	音楽
七夕を楽しもう（5歳児）活動を通して七夕の行事を知り、行事を楽しむとともに手遊びなども楽しむ	造形・音楽

動物の鳴き方（4歳児）動物の鳴き方を想像させる・作る楽しさを教える	造形・音楽
身の回りの音であそぼう（4歳児）創造力をふくらませる・身近にあるもので音を出して何の音に似ているか考える	音楽
スクラッチ（4～5歳児）自分で素敵な作品をつくれるように思考する	造形
ちょうちょをつくろう（4歳児）のりやはさみの使い方を学ぶ・それぞれ描きたい柄を自分で考える・リズムに触れ楽しむ	造形・音楽
デカルコマニーを使ってお花をつくろう（3歳児）デカルコマニーの面白さを知り友達とともに楽しむ・色が滲んだり混ざったりする様子を楽しむ	造形
かくれているものをさがそう！（5歳児）ものの見方を変えてみる・自分の世界観を表現する	造形・音楽
切り絵を作ってみよう（5歳児）自分で工夫して切り絵を作ってみよう	造形
デカルコマニー（4～6歳児）色の使い方やどんな形ができるのか想像力を働かせる	造形
楽器にふれよう（5歳児）表現力を身につける・楽器の正しい使い方を学ぼう	音楽
フィンガーペイント（5～6歳児）色を楽しむ	造形
リトミック（手拍子・足音など）（5～6歳児）音を楽しむ	音楽
フロッタージュ（4～6歳児）素材の形や模様が浮き上がる楽しさを知る	造形
どんな音になるかな？（1～3歳児）リズムを楽しむ・身近な音に興味をもってもらう	音楽
マラカスを作って歌おう（5歳児）音を楽しむ	音楽
ぼいぼいあそび（5歳児）リズム感を育てる・季節を知る	音楽
大きなたいこ・小さなたいこ（4歳児） 身近な素材で太鼓をつくる・大きさが音が変わることを知り、歌にのせて楽しむ	造形 音楽
トントントンシリーズであそぼう！（5歳児）みんなで音楽を楽しむ	音楽
楽器で遊ぼう（4～5歳児）周りとは合わせる力・協同性	造形・音楽
身の回りの物で音楽をつくろう！（5歳児）周りとは協力して楽しく自分たちの音を奏で音を感じる	音楽
新聞紙でハンドルを作りバスを運転してみる（5歳児） ハンドル作成や作成の楽しさを知る・歌やリズムにのって楽しむ	造形 音楽
みんなでピクニック！みんなの好きな食べ物で歌を作る	音楽
セットメニュー 成功した時の喜びを感じてほしい	音楽
歌で遊んでみよう（5～6歳児）音楽に触れ、楽器の音の違いを楽しむ	音楽

テーマの選び方としては第1回～11回の保育内容「表現Ⅰ」の音楽表現活動及び造形表現活動で学んだ遊びを模擬保育に取り入れている者が多く見受けられたが、中には自身で調べた表現遊びを使って模擬保育を行っている学生も見受けられた。テーマの分野は音楽が54名、造形が12名、音楽・造形を合わせた複合型が9名であった。

模擬保育の概念がよくわからないままのスタートであったと思うが、他者の模擬保育を見ることによって、時間の経過とともに次第に学生たちの意識が変化していくのが見て取れた。6分以内という制限時間があったことについては、学生によって受け止め方が異なり、短い時間で良かったという者や、もっと時間がほしかったという者もあり、様々であった。しかし、短い時間を有効に使い、学生一人ずつが子ども役の学生の前で、遊びのテーマをわかりやすく説明し、活動を進めていくことが、実習経験のない1年生にとって非常に重要な学び

であると推察された。

また、グループ活動ではなく、一人ずつが保育者・教育者として模擬保育を行うという形であったことから、説明する際の言葉の選び方、子ども役に対する対応の仕方等々において、学生のこれまでの子どもとの関わりやコミュニケーション能力、想像力など、個々の違いがはっきり見える結果となったように思われた。

指導案については、まだ1年生であることから、完成された指導案ではなく、テーマと活動の内容、対象年齢、準備物、子ども役の数、活動の進め方などを記すのみに留めた。その中で課題であると感じられたことは「対象年齢」を記載する箇所において、子どもの成長発達段階をしっかりと認識出来ておらず、例えば対象児の年齢を記入する箇所で「3～5歳児」と大まかに記載した学生がいたなどであった。本授業の第2回において、0歳から5歳までの子どもの成長発達過程についての学びを行ってはいるものの、ほとんどそれが学生の認識に繋がっていなかったことがこのことより示された。全模擬保育終了後に教員からの感想・評価を伝える中で、そのことは述べたが、そこで初めて気づいたという学生が多かったようであった。次年度2年次には幼稚園実習が控えている学年であり、今後の学びの中で、子どもの成長発達段階をしっかりと把握し、各年齢の子どもにどのような対応をしていけば良いかを認識することが非常に大切であると考えられた。

2. 2023年度保育内容「表現Ⅰ」授業における受講学生の模擬保育感想・評価シート及び自己評価シートからの結果と考察

前述の通り、保育内容「表現Ⅰ」における模擬保育実践活動は第12回～14回の授業内で、学生が一人ずつ保育者・教育者の役割を担い、子ども役の学生に対して活動を進めていくという形で行った。

評価は一人ずつ行った模擬保育発表に対しての感想・評価シートを模擬保育実施直後に全員が記入するという方法で行い、第15回目の授業において自身の模擬保育についての振り返りを自己評価シートに記入するという行程で進めた。

以下表5に他者の模擬保育に対する感想・評価をまとめたものを記す。

表5 他者の模擬保育に対する感想・評価シートのまとめ（複数回答）

感想・評価（プラス評価）	回答数
子どもが理解でき意欲がもてるよう説明をわかりやすく工夫していた。	43
子ども役の反応をしっかりと受け止めていてよかった（寄り添っていた）。	41
明るく楽しそうに行っていた。	31
笑顔が良かった。	31
声が大きく、ハキハキしてよかった。	31
言葉遣いが適切だった。	17
テーマや内容にオリジナリティがあり発想が素晴らしかった。	17
準備が良かった。	17
褒めていてよかった。	13
進行がスムーズだった。	11
ピアノが上手で良かった。	7
	計259

感想・評価（マイナス評価）	回答数
言葉遣いが年齢に合っていないと感じた。	16
声が小さかった。	12
進行がもう少しスムーズだと良かった。	8
もう少し工夫があれば良かった。	2
子どもの意欲を高めるためにもう少し褒めた方が良かった。	2
	計40

他者の模擬保育に対する感想・評価は総じて認めようとする姿勢が多く見受けられた。客観的に見ることで、指摘も多いのではと思っていたが、おそらく自身のことと比較して、他者の模擬保育がよりよく見えたのではないかと思われる。特に子ども役に対するわかりやすい説明、明るく楽しそうな様子、活動内容のオリジナリティ、声の大きさやテキパキとした進め方などを高く評価しているように推察された。複数回答のため多くの感想・評価が集まったが、単純に計算すると一人当たり4項目ほどの感想・評価を記入したことが察せられ、模擬保育に対する関心の高さが示されたように思われた。

次に自身の模擬保育の振り返りとして記した自己評価シートからの結果を表6に記す。

表6 模擬保育自己評価シートのまとめ（複数回答あり）

感想・評価（プラス評価）	回答数
大変楽しく模擬保育を行うことが出来た。	46
子ども役に対する説明をよく聞き取れる声で行うことが出来た。	
対象年齢児に合った言葉かけが出来た。	41
大変わかりやすく説明が出来た。	25
	13
	計125
感想・評価（今後改善すべき反省点）	回答数
子ども役に対する説明をもう少しわかりやすく行えば良かった。	63
言葉遣いなどにもう少し工夫が必要だと思った。	51
声が小さかった。	34
もう少し楽しく出来ると思っていたが出来なかった。	28
準備不足だった。	25
声掛けや指示の際に語彙が不足していた。	21
緊張でうまく出来なかった。	18
次はもっとしっかり取り組みたい。	16
対象年齢に合った模擬保育の組立てに子どもの発達段階を知る必要がある。	8
相手を思いやって接する必要があると感じた。	6
もっと頑張らなければいけない。	4
もっと明るく元気に行く必要があった。	3
ピアノを見ずに子どもを見て弾けるようにすれば良かった(練習が必要)。	3
時間配分が難しかった。	2
恥ずかしさをなくさなければと思った。	2
子どもたちをイメージして行うことが難しかった。	1
	計 285

自己評価シートからは自身の模擬保育に対する真摯な思い、振り返りと反省の気持ちなどが非常に多く読み取れた。初めて行う模擬保育がどのようなものなのかを認識することからそれは始まっており、加えて他者の頑張る姿を目の当たりにすることにより、様々な気づきがあったように推察された。自己評価全項目に共通してあげられたことは子ども役へのわかりやすい説明や言葉遣い等々に対する準備・工夫の重要性であると捉えられた。これは実際の模擬保育で説明や活動を行うに際しての臨機応変な対応の大切さと難しさであったと推察された。計画にはない子ども役の想定外の反応、時間配分の難しさ、自身の予想以上の緊張などへの対処であると思われ、事前準備の段階で様々なことに対する想像力が必要であることが示されたといえよう。同時に対象児の年齢設定など子どもの成長発達段階に対する認識の重要性に加えて、ピアノなどの保育技術獲得の必要性に対する気づきもあったことから、保育・教育者を目指す学生にとってこれらの学びも不可欠であると考えられた。

3. まとめ

本研究では保育内容「表現Ⅰ」での模擬保育の実践とその振り返りにおいて、受講学生の様々な気づきや学びが得られたことが明らかとなった。

他者の模擬保育に対する感想・評価では総じて認めようとする姿勢が多く見受けられ、自身の行った活動と比較して、他者の子ども役に対するわかりやすい説明、明るく楽しそうな様子、活動内容のオリジナリティ、声の大きさやテキパキとした進め方などが高い評価として示された。一方、自己評価であげられたこととしては、子ども役へのわかりやすい説明や言葉遣い等々に対する準備・工夫の不足であり、模擬保育に際しての臨機応変な対応の大切さと難しさであると捉えられた。これは模擬保育における子ども役の想定外の反応、時間配分の難しさ、自身の予想以上の緊張などへの対処であろうと捉えられ、事前準備の段階で様々なことに対する想像力が必要であることが推察された。

また、保育者を目指す学生の今後の課題として、子どもの成長発達過程への認識と理解、模擬保育で示された具体的な保育・教育の方法及び保育・教育技術の獲得、他者の良い点や自身の改善点を自分の学びに生かしていくことなども示されたといえる。

同時にこの模擬保育実践活動は、前述の文科省コアカリキュラムの目標に示された「幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける」ことや、その一つの到達目標である「模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている」ことを具体的に捉える良い機会であることが示唆された。

加えて、教員側の今後の課題として、模擬保育実践者及び観察者からの振り返りのみならず、子ども役として模擬保育に参加した学生からの振り返りも必要であろうということが考えられた。今後はより様々な角度から模擬保育実践活動を行い、学生の深い学びに繋がるような指導を心掛けることが重要であると考えられるものである。

V. 引用文献・参考文献

- 堂本真理子 (2018) 『保育内容 領域 表現』 わかば社
 畑 啓子・池上貴美子・上田智佳・種子田順子 (2017) 「初心者学生の模擬保育見学による意識変容に関する縦断的調査」 甲子園短期大学紀要 35 47-52

- 池田充裕 (2013) 「模擬保育による学生の教授力・評価力の向上に関する取り組みと課題」
山梨県立大学 人間福祉学部紀要Vol.8
- 伊藤 仁美 (2011) 「保育者に必要とされる音楽表現力の育成に関する一考察」
子ども教育宝仙大学紀要
- 厚生労働省 (2017) 『保育所保育指針 (2017年告示)』 フレーベル館
- 上月智晴 (2019) 「保育内容総論における模擬保育と学生の学び」
京都女子大学教職支援センター紀要No.1 15-27
- 文部科学省 (2016) 「中央教育審議会・教育課程部会・第9回幼児教育部会取りまとめ (案)」
- 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領 (2017年告示)』 フレーベル館
- 文部科学省 (2017) 教職課程コアカリキュラム
- 無藤 隆・浜口順子 (2007) 『事例で学ぶ保育内容 領域 表現』 萌文書林
- 高原和子・瀧 信子・矢野咲子 (2016) 「保育内容 (表現) 身体表現指導における模擬保育後のふりかえりに関する一考察」福岡女学院大学紀要No.17 23-28
- 山中 愛美 (2016) 「『保育内容・表現』におけるオペレッタの授業実践」夙川学院短期大学 教育実践研究紀要 No.6 49-52